

図画工作科

公開授業②

-Challenge to Creative Lessons-

CCL

自分らしく表現する子どもの姿をめざして

—「驚き」と「感動」の体験を通して—

第5学年 中島 敦夫

①テーマ設定の理由

附属三原学校園図画工作・美術部会では、3H 美術教育¹⁾の理念のもと人間力の形成をめざして、子どもたちに美意識を育む取り組みを行なってきた。3Hとは、(Heart/感じる力, Head/考える力, Hand/みる・かく・つくる力)であり、知性、感性、技能につながるものである。そして、この3つを相関的にかかわらせることによって子どもたちの美意識を育むことを目指してきた(図1)。

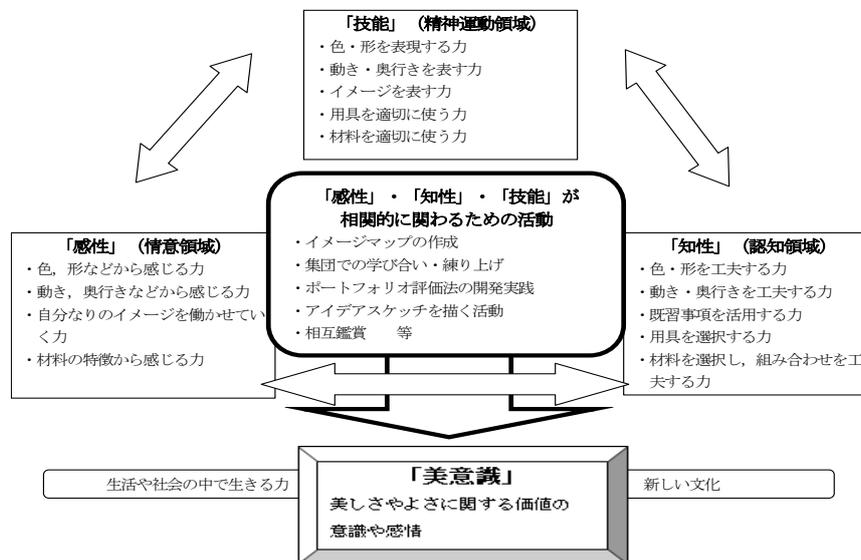


図1 美意識が育まれる過程

これまでの取り組みの中で常に願いとしてあったのは、子どもたち一人ひとりが「自分らしく表現活動を行ってほしい」ということであった。美意識を身に付けていく中で子どもたちが、自分流で表現をしていくということは欠かせないことである。そして、その原動力となっていたのは、子どもたちのこころの奥底から湧き上がる「驚き」と「感動」の体験である。「驚き」と「感動」の体験を通して、子どもたちが自分らしく表現していけるような題材開発を行いたいという思いから本研究テーマを設定した。

②自分らしく表現をするための方策

(1)「意外性」のある題材・学習展開の工夫

子どもたちにとって「意外性」のある題材を提示し、学習展開を考えることで学びの過程の中で「驚き」と「感動」の体験を生じさせることができる。この「驚き」と「感動」の体験はこころの奥底で生じるものであり、「知性」と「感性」を合わせた人間性全体に関わるものであるとされている²⁾。また、子どもたちが、「驚き」と「感動」を求めて自分らしく表現するために自ら学習課題を設定していくようにする。そうすることで「技能」も相関的に関わらせていく。

(2) タキソノミーテーブルの開発実践

附属三原学校園図画工作・美術部会では、評価の指標としてタキソノミーテーブルを作成している。このタキソノミーテーブルは、ブルームの提唱した評価の考え方³⁾で、現行学習指導要領の観点別評価4観点はこのタキソノミーを応用して設定されている。タキソノミーでは教育目標が以下の3つの領

域に整理されている。

○認知領域：知識の記憶や活用からなる

○精神運動領域：運動技能や操作技能からなる

○情意領域：興味、態度、価値観の変容からなる

これにクラスウォールらによって、継承・発展させた「新タキノミー」の考え方をもとにして本学
校園のタキノミーテーブルのもとを作成した。なお、子どもたちの「自分らしさ」を大切にするため
に「メタ認知」の視点を付け加えて独自のものになっている。(詳しくは、当日に教室入口においてある
資料をご参照してください。)

③本題材でこだわりたいこと

(1) 意外性を生み出す描画材としての段ボール

描画材として「ダンボール筆」⁴⁾を用いる。ダンボール筆とは、文字通りダンボールを丸めて筆状に
したものである。子どもにとってダンボールを使って描くのははじめての経験、どのような線が生まれ
るのかワクワクしながら活動をすることができる。さらに線はどうしても太く、大胆なものになる。こ
こから、子どもたちの今までになかった新しい表現を掘り起こしてしていきたい。

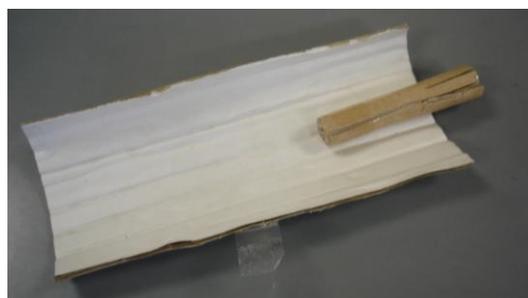
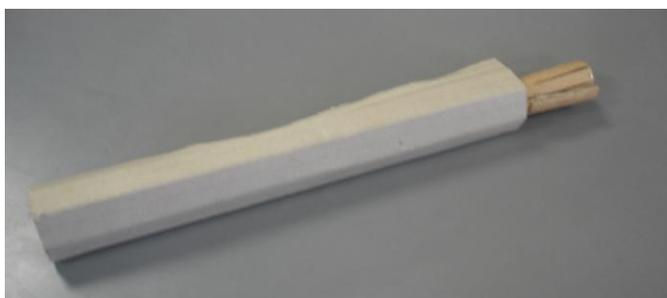


図2 ダンボール筆

(2) 集団制作の中で引き出す「自分らしさ」

自分らしさは、単に「自分らしく表現しなさい」と言っても引き出せるものではない。表現活動は常
に他者とのかかわり合いの中で行われている。本題材では、「線のリレー」を行いながら集団とのかかわ
り合いの中で自分らしさを感じる取り組みを行う。友だちの描いた線や形に合わせて表現をする子ども
、あえて方向性を変えて表現をする子ども、どれもその子の思いが反映された自分らしさではないだろう
か。完成した作品の中にある自分が描いた部分に着目させることで全体の中の自分の表現に気付かせ
、お互いに「驚き」と「感動」を分かち合う中で自分らしさの発見につなげていきたい。

註

- 1) 若元澄男：「美術教育！だれのため？なんのため？-たかが美術教育/されど美術教育-」，月刊「学
校教育 No.1132」，pp6-13，2011，広島大学附属小学校学校教育研究会第一編集部。
- 2) 佐々木秀樹：「子ども主義宣言 子どもたちのリアルと図工の時間」，pp.17-18，2008，三晃書房。
- 3) 梶田叡一：「教育評価[第2版補訂版]」，pp.36-39，2002，有斐閣双書。
- 4) 日本造形研究会：「図画工作学習指導書5・6年上 指導実践事例編」，pp.10-11，2011，
開隆堂。

※参考資料

吉川和生，中島敦夫，大和浩子，内田雅三，中村和世：「美意識を育む図画工作科・美術科の授業
開発—創造的思考力の育成とかかわって—」，広島大学学部・附属学校共同研究紀要，no. 39，
pp. 255-260，2011。

→http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA11551679/AnnEducRes_39_255.pdf